

県内10箇所のスマートIC整備効果

— 沿線地域における産業の発展と高速道路利便性の向上 —

茨城県内のスマートIC位置図

2023年12月
高速道路対策室

水戸北スマートIC

(全国初の本線直結型)
2006.9.25 ハーフIC 供用開始
2019.9.7 フルIC 供用開始
利用交通量 約5,803台/日
(2022年度平均)
※2019年10月台風19号により浸水被災。
同12月に仮復旧、翌年6月に本復旧。

東海スマートIC

2009.3.29 供用開始
利用交通量 約2,625台/日
(2022年度平均)

(仮称) 笠間PASスマートIC

2021.8.6 新規事業化
施行者: 東日本高速道路(株), 笠間市
計画交通量 1,000台/日

友部SASスマートIC

2005.7.1 供用開始
利用交通量 約3,770台/日
(2022年度平均)

(仮称) つくばスマートIC

2017.7.21 新規事業化
施行者: 東日本高速道路(株), つくば市
計画交通量 3,700台/日

石岡小美玉スマートIC

2011.3.24 供用開始
利用交通量 約6,268台/日
(2022年度平均)

(仮称) つくばみらいスマートIC

2019.9.27 新規事業化
施行者: 東日本高速道路(株), つくばみらい市
計画交通量 4,100台/日

(仮称) 千代田PASスマートIC

2022.9.30 新規事業化
施行者: 東日本高速道路(株), かすみがうら市
計画交通量 1,800台/日

(仮称) 守谷SASスマートIC

2023.9.8 発表
<R5準備段階調査箇所>

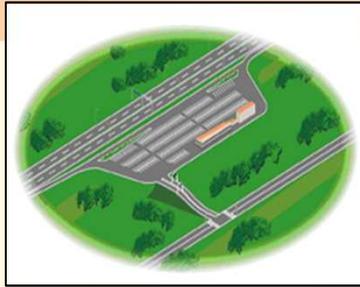
2023.9.8 発表
<R5準備段階調査箇所>

● SA・PA接続型
● 本線直結型

概要

「スマートIC」とは

- ◆ 高速道路の**本線**や**SA・PA**、**バスストップ**から乗り降りができるように設置されるICで、通行可能な車両（料金の支払い方法）を、**ETCを搭載した車両に限定**しているICです。
- ◆ 令和5年12月末時点で、全国**156箇所が開通済み**であり、また、全国**52箇所**で整備が進められております。



SA・PA接続型イメージ図



本線直結型イメージ図

日本の高速道路IC間隔のイメージ↓



欧米諸国の高速道路IC間隔とした場合のイメージ↓



目的

- ◆ 日本におけるIC間隔の平均は**約10km**であり、欧米諸国の平地部における無料の高速道路は**約5km**であります。従来のICよりも低コストで整備できる、スマートICを整備することで、欧米諸国の水準に改善できます。
- ◆ スマートICの整備は、**高速道路へのアクセシビリティが向上**し、一般道で発生している**渋滞の緩和**や観光地への**時間短縮**、**物流の効率化**に繋がり、**産業の発展**や**地域の活性化**が期待されます。

整備効果

◆ スマートICの主な整備効果

- ・ 通勤時間短縮
- ・ 観光施設へのアクセス改善
- ・ 工業団地へのアクセス改善
- ・ 医療機関への搬送時間短縮 等

<地域の活性化や高速道路の利便性向上>



(仮称) つくばスマートIC (圏央道)



水戸北スマートIC (常磐道)